

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム アウル 2	評価実施年月日	平成 19 年 11 月 1日
評価実施構成員氏名	亀井 陽子 小林 典江 向井 宏樹 坂本 一雄 常川 智恵美 今地 しのぶ 保村 里美		
記録者氏名	亀井 陽子	記録年月日	平成 19年 12月 1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	グループホームに関する法令や意義を正しく理解した上で、入居者が地域の中でその人らしく暮らしていくことができるよう考えられ、独自の理念を作成している。	○	ユニット会などで現在の理念の確認を行うよう取り組む。
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は、玄関やリビングなどに掲示されている他、理念カードを作成し職員が常に携帯しており、実践に活かされるよう努めている。	○	ユニット会などで現在の理念の確認を行うよう取り組む。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族には入居時に説明。又、家族会や運営推進会議等の機会に地域住民・民生委員の方々にも理解していただけるよう取り組んでいる。	○	地域住民に行事の通知を配布し、参加して頂きその際に行えるよう取り組む。 又、日常の地域で行えること(草取り、ゴミ拾い)に取り組む。 玄関前に車を駐車せず、入りやすい環境を作る。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や買い物など外出時、日常的に挨拶を交わすことを心掛けており、学校帰りの子供達が立ち寄る光景も見られる。又、玄関には花を植えたり、ベンチを設置するなど立ち寄りやすい雰囲気づくりを行っている。	○	自治会出席の担当を決め、出来る限り参加できるよう取り組む。 子供会のお賽銭など、短い時間だが出来る限り行えるよう取り組む。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域自治会へ加入しているが、地域行事への参加や役員会などの参加は多いとは言えない。	○	自治会出席の担当を決め、出来る限り参加できるよう取り組む。 子供会のお賽銭など、短い時間だが出来る限り行えるよう取り組む。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営者は、地域の講演会や学校等で認知症に関する講義を行い、地域の高齢者への理解を広めることに貢献している。又、運営推進会議を通じ、役所職員や民生委員と共に地域高齢者の状況などについて話し合い、視野を広げ取り組んでいけるよう努めている。	○	現在までも在宅介護等の相談に管理者・指導員は気軽にアドバイスを行ってきているが、今後も出来る限り必要に応じ協力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価・外部評価に対し事前に趣旨を説明し評価実施しており、その後全体で話し合い、改善点に関しては早急に対応するよう努めている。又、評価結果を謙虚に受け止め、以後のケアの向上に活かせるよう努めている。	○	自己評価・外部評価は自身のケアについて客観的に見ることができ、自身を見つめなおす機会として今後も有効に利用していきたい。
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議をホームの行事や全体会議と組み合わせることにより、担当以外のスタッフも地域の役員の意見を聞くことができる。又、サービスの向上に活かすことができるよう取り組んでいるが、会議の内容を全スタッフに周知されていない。	○	次回からの運営推進会議へスタッフの参加、又内容を全体会などで随時周知する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営者・指導員等、頻繁な行き来はないが、必要に応じホームの入居者の状況を相談、報告を行っている。又、地域高齢者の情報交換も行っている。	○	その都度連携をとり、サービス向上に今後も取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見制度など活用していた例もあり制度の説明等行っているが、全スタッフには内容を周知されていない。	○	全体会などで時間を設け、積極的に勉強会を行いたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者・職員は日頃よりケアを通じて話し合いがもたれ、防止に努めている。又、家族を含め関わる者の心理的状況についてよく話を聞き、ストレスを抱えないようなアドバイスをこなう等、早期発見・対策に努めている。	○	全体会などで時間を設け、積極的に勉強会を行いたい。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	本人・家族側の環境や状況を理解した上で、相手の立場に立って分かりやすく説明を行なっている。又、個々の疑問・不安に関しても十分に配慮し説明を行い、理解・納得を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者と職員の信頼関係を築き、日常的に利用者の意見・不満に耳を傾け改善に取り組み支援に反映できるよう心掛けている。又、苦情ボックスを玄関に設置し、ホーム長管理の下行なっている。	○	苦情や不満・意見を伝えてくださる自分作り、又、解決に向けて速やかに取り組めるチーム作りを今後も継続して行なっていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に1度便りを使用し、文面・写真にて家族に近況報告。又、金銭管理台帳のコピーを同封し収支内容を報告している。健康状態に変化がある場合は、その都度電話にて相談・報告を行なっている。		継続して出来事を伝えていけるようにしたい。 職員の異動報告については統一された仕方はないが、家族面会時に口頭で報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約の段階から苦情や意見の受付先を説明し、管理者が回答・検討し、苦情者への迅速な改善報告を行い、運営に反映させている。玄関には苦情ボックスを設置しているが、直接職員へ伝えていただけるよう信頼関係を築く努力をしている。入居契約書に外部機関の連絡先を記載し、説明を行なっている。		意見や相談をしてくれることに感謝し、今後もより良いホーム作りに反映させたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者・管理者は会議やミーティング等で意見や提案を聞き入れる機会を設けている。又、管理者とも話しやすい雰囲気が常にあり、相談しやすい環境にある。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況・状態に合わせた勤務体制が確保されており、状況に応じ勤務時間の調整が常時行なえるよう全職員の協力・理解を得ている。		人員の確保が難しく超過勤務になったとき、職員の体調面での不安はあるが、互いに協力しあい勤務、支援にあたっている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	全職員がどちらのユニットでもスムーズにケアにあたれる関係性を築いており、離職・異動によるダメージを最小限の抑える配慮を行なっている。		入居者に対し、不安を抱えないような説明を行なっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階に応じ外部研修に参加し、学びの機会を設けている。又、会議等の場で施設内研修や、外部からの研修生受け入れにより意見交換を行なうことにより、知識・技術の向上に努めている。	○	外部研修に参加をすることにより、他施設の職員との意見交換ができ、刺激になるので年1回くらい出来ることなら参加できるよう取り組む。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	近隣3市町村の広域連絡会で勉強会、交流の場を確保しており、情報の交換など行い、質の向上に努めている。		今後も交流・情報交換の場が増え、共にサービスの向上につなげていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者・管理者はスーパーバイザーとしての役割を担い、常に職員個々の考えや行動を受容し合える、または相談できる雰囲気作りを行いストレス軽減を図る取り組みをしている。 管理者は、職員の精神的・身体的状況を常に細やかに観察・配慮しており、職員相互が気兼ねなく話し合える環境にある。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	日頃より必要な助言・アドバイスがあり、各自が向上心を持って働けるよう努めていると思われる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人の状態確認を含め家族を交え本人と面談し、不安・要望を聞き、ホームの内容説明を行なっている。また、本人がホームを見学していただくことで、雰囲気を感じていただき、関係性を築く機会を多くもっている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ホームの内容を細かく説明し、専門的なアドバイスを行なう。家族が納得されるまで何度も聞く姿勢と機会をつくり、ホームの見学をしていただく等関係性を築く努力を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その時の本人・家族の状況を見極め、家族の要望なども聞きいれ、他サービス利用 案の助言を含め状況に応じた内容への支援を行なうように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の不安等が最小限で入居していただく為、入居前に来園し短時間でも過ごす等 雰囲気に馴染む工夫、入居後最低1週間は家族と連絡を密に行い、生活の中の情 報交換を行い、本人が安心できる工夫に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の豊かな内面世界を保つ為、日々生活の中で職員が利用者と一緒に喜怒哀楽を表現している。職務ではなく、共に生活をするという家族の雰囲気 で、一緒に出来ることを探し、共に学び、感謝できる関係を築くよう努力している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日常生活の報告や相談を常に行なえる関係性を築いている。話し合い、情報を共有することで、家族が疎外感を感じる ことがなく、一緒に支えていけるよう取り組んでいる。		家族会はもちろんのこと、日頃より協力しあえる関係性をこれからも築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族構成や状況を出来るかぎり理解し、双方の関係を踏まえた上よりよい関係が築け、自然体で支援・協力が行なえるよう取り組んでいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ライフヒストリー・家族からの情報を基に、これまでの馴染みの関係が保てるよう地域の老人会への参加、墓参り、知人宅への訪問等支援を行なっている。又、面会にも制限はなく、自由に迎えている。		今後も関係の維持や、馴染みの場への支援を大切に行なっていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々の状態や相性を把握した上で、一方的に介入するのではなく利用者同士の関わりを見守り、見極め、それぞれが孤立しないよう支援している。又、職員を通して日常的作業の中で、和を取れるような声掛けや雰囲気作りを心掛けている。		積極的に介入しなくてはいけない場面等の見極めが難しいと思うこともあるが、そこに住まう人同士のコミュニティを今後も支援していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他施設への転居、入院による退居の場合もお見舞いに行くなどの面会、家族へ年数回の行事への参加連絡をする等、本人・家族の心身状態をくみとり、相談や支援に応じられるよう努めている。現在も退居者家族の行事参加がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	同じ目線で相手の話を聞く姿勢を持ち、本人の希望や想いを大切にくみとり、把握し実現できるよう努めている。困難な場合もその人の立場に立ち、検討している。		職員の体制や時間などに追われることなく、これからも本人の思いを一番に考え、検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人・家族から頂いたライフヒストリー(情報)を活用し、その人の生活歴を細やかに把握するよう努めている。又、入居後に本人・家族との会話で知り得た情報も共有し、日々のケアに反映するよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員の日々の気付き、関わりを申し送り簿やアセスメントシートへ記入し、記録や口頭での情報の交換・共有にて、総合的に現状を把握、支援できるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	各ユニットのケアマネジャーを中心とし、月1回のカンファレンス・ミニ会議で利用者が「今何を必要とされているか」を話し合い、家族と相談し、要望等取り入れ介護計画に反映されるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	心身状態の変化に応じ、必要な関係者の意見を取り入れ、細やかなケアを提供出来るように介護計画の見直しを行なっている。又、月1回のスタッフ会議で見直しを行い、解決すべき課題を明確にして、現状にあったプラン作りに努めている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	独自のアセスメントシートに個々の生活の様子・実践内容を記載、ファイリングし、常に職員全体で情報を共有できるよう工夫している。又、申し送り簿の活用とアセスメントシートの平行活用でも情報交換ができ、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人の状態、家族側の環境や状況に合わせ要望などをスタッフ間で情報交換を図り、柔軟に対応・支援を行なうように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	年数回の行事で、餅つき・大正琴などボランティアの協力、民生委員の参加協力を得るなど地域資源を活用している。又、警察・消防とは緊急事態に備え協力体制を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	出張理容サービスの支援を行なっている。他の利用に関しては、金銭的の発生があるため家族と相談を行なっている。		希望や必要に応じ今後も支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	ボランティアの要請などで地域包括支援センターとの兼ね合いはあるが、協働していない。	○	全体会などを通して、どのような内容で連携しているのかを、担当スタッフより聞けるように取り組んでほしい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護職員を確保しており、利用者の体調に変化があった際ホームドクターへ相談、病状にあった医療機関への支援ができるよう、訪問看護ステーションとも気軽に相談できる関係にある。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医へ常に症状・状態の報告を行い、個々にあった指示・助言をいただき、症状に変化がある場合は専門的な治療を受けられる体制にある。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤で2名の看護職員を確保しており、日常の健康管理を行なっている。又、訪問看護ステーションとの連携もあり医療活用は可能な状況にある。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	家族・主治医・病院との情報交換を密に行うとともに、職員は出来る限り面会へ行き状態の変化を観察、早期退院に向けた連携がとれるよう心掛けている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時家族に終末期ケアについて説明を行い、意向についても確認を行なっている。又、病状に変化があった場合は、医師に家族・管理者で状態の説明を受け、運営者を交え再度ホームで出来るケアを具体的に検討・説明しているが、現在容態の安定されている利用者に関しては詳しい話し合いが設けられていない。	○	口頭、書面での説明を行い、かかりつけ医などにも相談できる環境が整っているが、スタッフにもその都度細かい報告、説明が早い段階で必要と思われる。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ホームドクターの協力の下、指示・助言に対しスタッフ間で重度化や終末期について話しあい、今後の変化に備える努力を行なっている。又、地域の訪問看護ステーションからもアドバイスを頂くなどの協力も得られチームでの支援に取り組める体制にある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	環境面・身体面など配慮した上で、ご家族へ相談・説明し出来る限り意向に沿うよう、又、本人の使い慣れた馴染みのある家具の使用等心身のダメージを軽減できるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	運営者・管理職より、常日頃から個々の人格尊重やプライバシーの配慮についての指導があり、個々の能力に応じた支援・対応を心掛けており取り組んでいる。又、記録の管理も徹底して行なわれている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の伝えたいこと・思いを日々の表情や言動で察知し、本人が自ら決定ができ、意欲低下にならず納得できるよう支援をしている。表出が困難な方でも、個々の能力に合わせ感情が表現できるよう問いかけなど考慮している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者ひとりひとりのペースを大切に、日々希望に合った生活が送れるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の昔からのスタイルを継続して支援していけるよう、本人と共に洋服を選択、化粧等おしゃれへの声掛け、又、可能な限り馴染みの理美容室の利用が出来るよう努めている。外出が困難な場合は出張理美容の利用機会と提供している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	リビング内では調理の音や香りなどの刺激があり、個々の能力に応じ調理・片付け等が自然と一緒にこなえるよう声がけ支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	特定の疾患・医師の指示により禁止されていることもあるが、入居者全員で楽しめるよう配慮・支援を行なっている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来る限り自立して排泄できるよう、排泄時間・シグナルを察知し誘導を行なっている。又、外出など日々の状態に合わせて布パンツ・紙パンツ・パットの使い分けをしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	体調・気分を考慮し、出来る限り希望の時間に入浴ができる体制をとっている。又、希望の意思を伝えられない方には、家族からの情報を参考に温度・回数等調整し、楽しめるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の体調・睡眠状態を把握し、分散睡眠であっても本人の休息と考え、安心して眠れる環境を作るよう努力している。寝付けない方には、精神的に安心していただけるよう傾聴や暖かい飲み物の提供などその時の状況にて対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴情報を基に、日常生活で本人の好きなこと・得意な事など力を発揮できる機会を作り、取り入れ、互いに楽しみ、頼られる喜びを感じていただけるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の能力・希望によるが、家族と相談し理解していただいた上で、金額を決め所持されている。又、職員と一緒に小遣い帳をつけ金銭の出納記載・領収書の添付支援・管理を行なっている。	○	買い物などの場面の提供が少ないと思われる。又、本人をゆっくり・急かさず支払い出来る様なお店で買い物を楽しんでもらえるよう支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候・健康状態を考慮し、外出への機会を設けるよう努めているが、なかなか希望に沿うことが出来ないときもある。	○	季節や体調を考慮し、本人がゆっくり買い物やドライブにいけるよう出来る限り取り組んでいきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	日常会話の中から本人の要望などを汲み取り、ご家族に相談し、家族などと共に外出できる機会を支援出来る様努めている。 しかし、個々の体力など体調面の心配が年々増してきている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	事前にご家族等に電話連絡可能時間を聞き、利用者本人からの要望があれば可能な限り会話が出来る様支援している。又、手紙などは、職員サイドからお願いし書いていただくこともある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の設定・制限はなく、気軽に訪問でき、リビングや居室でゆっくり過ごしていただいている。又、家族と一緒に宿泊出来る様寝具などの用意を行なっている。 職員は明るい挨拶等、歓迎している雰囲気が伝わるよう心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営者・管理者より身体拘束について、会議等利用ししっかりした指導がされており、日々拘束・抑制のないケアを実践するよう努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯上の理由から正面玄関のみ施錠を行なっているが、日中は施錠を行わず自由に外出できる。職員は利用者の所在を把握し、自由に・安全に外出できるよう支援している。各居室等施錠できる構造となっており、個人がプライバシーを保護できるが、非常事態に備えスペアキーが各ユニットに用意されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜問わず付かず・離れず自然な形で見守りを行い、所在の確認・把握、情報の共有と交換にて安全への配慮に努めている。	○	…だろうと思わずに、予測できる危険にはその都度話し合い、ユニット会などで再度確認を行う。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	すべてをなくす訳ではなく、注意の必要な物品を状況に応じ保管するなど取り組んでいる。又、本人の管理能力にあわせ見守り・回収を行なうなど工夫を行なっているが徹底されていないこともある。	○	ユニット会で場所を統一できるよう必要なことを話し合いご家族にもその旨を伝えられるよう行う。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故は常に起こり得ることを念頭に置き、個々の行動・容態の観察を行い、些細な変化を見逃すことのないよう取り組んでいる。避難訓練や救命講習の受講、緊急マニュアルを熟読するなどそれぞれ学び、事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	各ユニットにマニュアルが用意され、いつでも確認出来る。全職員は定期的に救命講習を受講、又、ホームの看護師より会議等の勉強会で指導を受け急変時や不測の事態に対応できる体制となっている。	○	全体会で応急手当、119番救急車の要請の仕方などを勉強会を開き、早急に行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回自衛消防活動を実施し、消防職員に来ていただき消防活動に対し指示・助言を頂いている。その際は自治会長や民生委員にも参加して頂いているが、他事業所の参加は協力は行っていない。	○	今後、DS・グランデージの職員が訓練参加をすることの検討を希望。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	日常起こり得るリスクについて、面会時等に近況報告を含め説明・相談を行っている。又、抑圧感のない暮らしを送っていただけるよう対応策を話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	昼夜問わず容態観察が行なわれており、バイタルの記録管理により利用者個々の状態・行動を把握している。些細な変化を逃さないよう努め、全職員が情報を共有し、体調に変化がある際は速やかにホーム看護師に報告、指示を仰ぎ、迅速に対応できる体制にある。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋をアセスメントファイルに挟み、常に内容を確認出来る様配慮している。薬の内容・副作用について薬剤師より説明・指導をうけ、全職員が理解出来る様情報を共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	普段から排便確認を重視し、状態を把握出来る様記録確認している。又、服薬だけに頼る考えではなく、食物繊維の多い食材・献立での食事提供、水分管理、日中の運動、腹部マッサージなど可能な限り自然排便に繋がるよう取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	就寝前の歯磨き、義歯洗浄を行なっている。個々の状態によってはイソジンでのうがい、紅茶での口腔ケアを行っている。	○	決して業務的にはならぬよう、トイレ後や立ち上がりの際、声を掛け自然な形で行えればと思います。又一人一人の身体状況なども視野に入れ、行いやすい方法を考え取り組みたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の健康状態・食事摂取量によっては主治医へ相談し、栄養補助剤を提供している。水分摂取量も個人ごとに記録され脱水等に注意を払っている。ひとりひとりの習慣を考慮し支援を行なっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルが各ユニットに設置され常に確認が出来る。インフルエンザ予防接種の施行、日頃からうがい・手洗いをを行い予防に努めている。又、汚物の処理には塩素系漂白剤の使用と、手袋の着用にて対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒マニュアルを作成している。布巾・まな板など除菌、消毒を心掛け行なっているが、台所周辺の衛生管理は不十分と感じる。食材は新鮮な物を購入しているが、冷蔵庫の使用法・保存方法、使い忘れなども含め管理において改善が必要である。	○	食材の購入時にその都度賞味期限の確認を行う、調理器具等は時間を決めるのではなく、使用都度清潔に管理していく。又食品衛生管理者を中心に話し合っていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には手書きデザインの看板・大きなポーチを設け、周囲には花を多く植えるなど明るさと親しみやすい雰囲気づくり・工夫がされている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	生活空間は木造造りで温かい印象を与え、適度な光の照明となっている。職員は常に不快な音を発しないよう注意を払っており、利用者個々が居心地よく過ごせる様室内の装飾品等にも気を配っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下・リビング・喫煙所などそれぞれが思い思い心地よく過ごせる様、場所を選択できるような環境が作られている。死角スペースにいても適度に人の気配を感じる事ができ、安心できる居場所を確保している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際家族と相談し、出来る限り使い慣れた物を利用していただき、安心して居心地よく過ごすことができるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	室温・湿度には十分配慮し、空気の入替え・加湿器・空気清浄機の使用にて心地よい環境を確保するよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下・トイレには手すりが設置、階段・浴室には手すりのほか滑り止め(マット含む)が設置され、自立支援と安全に生活が送れるよう工夫されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	夜間トイレには誘導灯の設置、家具など馴染みのあるものを使用し環境に変化が無いよう配慮を行なっている。残存機能を見極め、個々の自立した生活を支えられるよう日々考え工夫するよう努めている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	敷地内にはベランダ、中庭、家庭菜園など利用者それぞれが活動を楽しめるよう配慮されている。外での昼食や日光浴が楽しめるようベンチ等の設置、洗濯物干し、ペット(犬)とのふれあい、遊歩道の散歩や近隣の方とのふれあいなど幅広く空間を活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）
 スタッフ全員が仲良く、楽しく明るい自然な雰囲気の中で入居者中心の生活が支援されるよう努めている。
 チームワークは最高に良い。

利用者・スタッフ共に笑顔が多く、相手の存在を認め合いながら安心して生活できるよう取り組んでいる。

常に職員間で情報交換・共有し、形を変えながら支援するなど工夫している。以前は皆に笑顔を求めようとしたところがあったが、最近（今後）はそこにこだわらず、すべて見守りし、多様に受け入れられるような意識で取り組んでいきたい。